

個人の同意に基づき、 より安心・安全に、 効率的なデータ流通をクラウド上で実現

近年、多様化している業務の効率化・高度化を目的としたデータ利活用に向けて、クラウド上でのセキュアでコストや手間を抑えたデータ流通が求められています。データ取得・利用の同意を個人から得ることでデータ流通の信頼性・透明性を高め、外部システムとも柔軟に連携できる仕組みにより、サービスやイノベーションの創出を促進します。

パーソナルデータを扱う際に、次のような課題はありませんか？

動的な同意管理が困難

データ利活用においては、提供先や利用目的などの変更に応じて、個人からの同意を動的に管理する必要があるが、多くの手間とコストが掛かる。

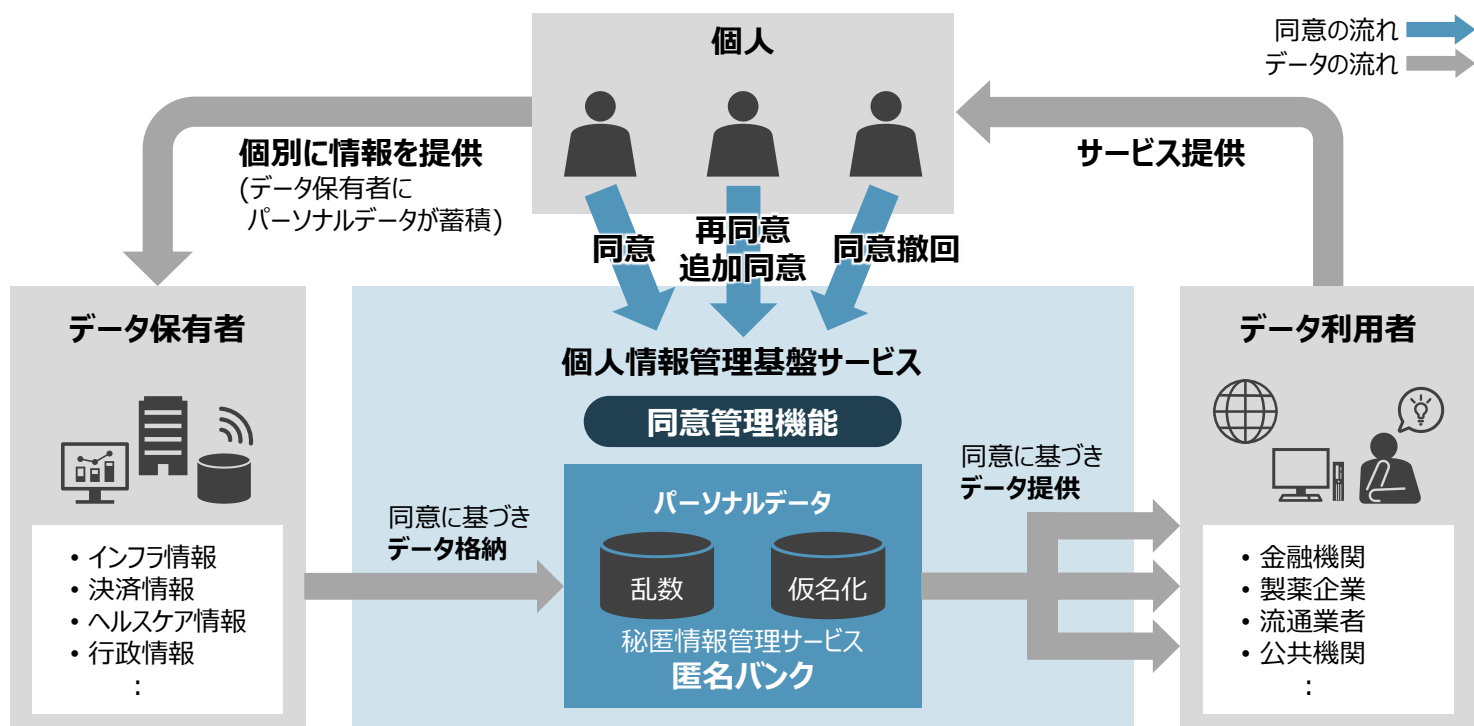
外部システムとのデータ連携が困難

複数の企業や機関の間でデータを連携させて、さまざまな事業・サービスに活用したいが、安全にデータを流通・連携させる仕組みがない。

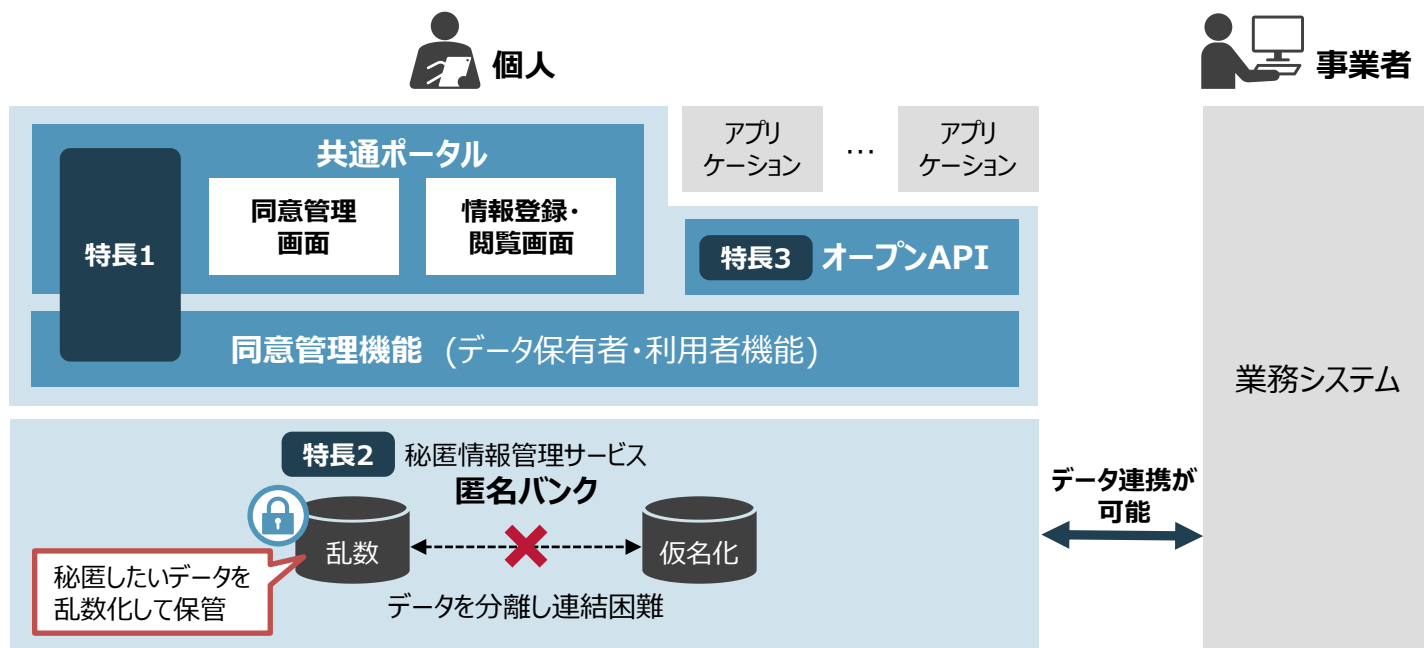
安心・安全なデータ管理が困難

個人情報保護法などの法令やガイドラインを遵守し、情報漏えいのリスクを抑え、安心・安全にデータを収集・管理することが難しい。

個人情報管理基盤サービスは、日立独自の技術を用いた仕組みで、
安心・安全なデータ流通を支援します。



個人情報管理基盤サービスの特長



特長1 個人の動的な同意に基づきデータ流通を可能にする各種機能を提供

本サービスで提供する「共通ポータル」を通じて、個人がパーソナルデータの提供先やデータ項目などを自動的に指定することができます。ほかにも、設定された同意情報をもとにデータ保有者と利用者間のデータのやり取りを可能とする「同意管理機能」など、データの流通に必要な各種機能を提供します。

特長2 日立独自の秘匿化技術を用いた「匿名バンク」でより高度なセキュリティを実現

日立の秘匿情報管理サービス「匿名バンク」を活用し、その取り扱いに特に配慮が必要とされるパーソナルデータを秘匿化・仮名化し、クラウド上でより安全に利活用できるようになります。このような高いセキュリティを確保したデータ管理がクラウド上で行えるため、より安全なパーソナルデータ利活用の環境を迅速に準備することが可能です。

特長3 オープンAPIによるデータ連携や業務システム連携が可能

仮名化されたデータをやり取りできるオープンAPIを提供しているため、アプリケーションを通じてより安全にパーソナルデータを活用したサービスを提供できます。例えば本サービスを地域で利用し、さまざまな企業がアプリケーションを開発することで、地域活性化や、新たな事業・サービスの創出にもつなげることができます。また、自治体や民間事業者が保有する業務システムとの連携により、業務の効率化やDXの推進に活用することも可能です。

コンセプト動画配信中

個人情報管理基盤サービスがめざす未来の姿を、ユースケースとともにご紹介しているコンセプト動画です。

個人情報管理基盤サービス
～厳重なセキュリティで個人情報を守り、
データ利活用で新しい価値を生み出すDX基盤～
https://www.hitachi.co.jp/app/personal_information/mov.html



- カタログに記載の仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。
- 本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ



個人情報管理基盤サービスのWebサイト
https://www.hitachi.co.jp/app/personal_information/